

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Three-dimensional sea urchin-like TiO <sub>2</sub> synthesized via ethylene glycol-assisted hydrothermal method: Its characteristics and solar photocatalytic activity
著者(和文)	CABRAL Kerry Pan
Author(English)	Kerry Pan Cabral
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10165号, 授与年月日:2016年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:日野出 洋文,MARIQUIT EDEN GAN,宮内 雅浩,大川原 真一,森伸介
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10165号, Conferred date:2016/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名		Kerry Pan Cabral	
論文審査 審査員		氏名	職名		氏名	職名
	主査	日野出 洋文	教授	審査員	森 伸介	准教授
	審査員	Eden G. Mariquit	講師			
		宮内 雅浩	准教授			
大川原 真一		准教授				

## 論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「Three-dimensional sea urchin-like TiO<sub>2</sub> synthesized via ethylene glycol-assisted hydrothermal method: Its characteristics and solar photocatalytic activity」と題し、エチレングリコールを用いる熱水合成によって3次元ウニ形状のTiO<sub>2</sub>を作成し、その太陽光触媒活性を評価し考察したものであり、英文で書かれ、以下の6章から構成されている。

第1章「Introduction」では、染料による水質汚染問題とその除去方法について概説し、特に促進酸化法の利点を述べ、本研究で用いたTiO<sub>2</sub>光触媒の特徴および問題点について言及し、本研究の目的、意義および論文構成について解説している。

第2章「Literature Review」では、本研究に関連するこれまでの研究に関して、TiO<sub>2</sub>の触媒活性、高次元TiO<sub>2</sub>の設計およびその応用、並びに希土類金属ドーブTiO<sub>2</sub>による活性改善および高次元TiO<sub>2</sub>の調製法について概説している。

第3章「Synthesis of 3D Sea Urchin-like TiO<sub>2</sub>(SUT)」では、3次元ウニ状TiO<sub>2</sub>合成方法としてエチレングリコールを溶媒として用いる水熱合成の実験方法および実験結果を述べ、考察している。電界放射型走査電子顕微鏡およびX線回折から得られた実験データを基つき、結晶成長および結晶形成機構を提案し、更に水酸化ナトリウムおよびエチレングリコールの結晶形成・成長への影響を詳しく考察している。

第4章「Effect of Calcination Temperature on 3D SUT」では、焼成温度の3D SUT光触媒活性への影響を比較し考察している。さらに、合成した試料の電界放射型走査電子顕微鏡、X線回折、X線光電子分光法、紫外可視分光光度法、窒素吸着法によるキャラクタリゼーションの結果を述べている。試料の光触媒活性はメチレンブルー分解によって評価した。太陽光を用いる実験において、3D SUTが光触媒能力を示すことが判った。最も高い活性を示した試料が350℃で焼成した3D SUTで、本研究での実験条件では、光触媒標準物質であるDegussa P-25に匹敵する活性を示した。さらに、試料の沈降分離実験を行い、使用後の排水からの分離の容易さを調べた。3D SUTがP-25より速く沈降したことが確認でき、処理した排水からの分離が簡易ということを証明できた。

第5章「Effect of Dopant Amount and Calcination Temperature on 3D Holmium-doped Sea Urchin-like TiO<sub>2</sub> (Ho-SUT)」では、ホルミウムをドーブした3次元ウニ状TiO<sub>2</sub>試料のドーブ量および焼成温度による光触媒活性への影響を比較・考察している。さらに、合成した試料の電界放射型走査電子顕微鏡、X線回折、X線光電子分光法、紫外可視分光光度法によるキャラクタリゼーションの結果を示している。3%ホルミウムドーブした試料が最も高い光触媒活性を示し、それ以上のドーブ量では光触媒活性が低下したことを示している。最適な焼成温度は350℃で、それより高い温度で焼成した試料では活性が低下した。3%ホルミウムドーブした試料の高い活性はウニ形状態、アナターゼ結晶構造、高比表面積、高細孔体積、最適なドーパント量という因子の相乗作用によるものと考えられる。3D SUTと同様に、沈降実験を行い、Ho-SUTがP-25より速く沈降することが確認でき、排水からの分離の容易さを証明できた。

第6章「General Conclusion」では、以上の結果を総括している。

以上要するに、本論文は、エチレングリコールを用いる水熱合成によって合成した3次元ウニ状TiO<sub>2</sub>の太陽光による光触媒活性を評価し、沈降分離の可能性を示したもので、光触媒分野に関してにおいて、工学上、工業上貢献することが大きい、よって、本論文は博士(工学)の学位論文として十分価値があるものと認められる。